

交通安全

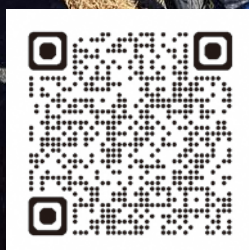
TRAFFIC SAFETY



道の駅
土岐美濃焼街道 どんぶり会館
Toki Minoyaki Kaido Donburi Kaikan →

ヘルメット着用 守る命 繋ぐ未来

あなたは何を守りますか？



詳細はWEBサイトにて

岐阜県 自転車条例

「岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」

令和4年4月1日施行



自転車の点検・整備等

乗る前に必要な点検・整備を行いましょう！
両側面に反射器材を備えましょう！

備えて安心

自転車保険の加入義務

こんな**高額**損害**賠償**事例がありました

坂道を下ってきた小学5年生の自転車が歩行中の女性と正面衝突…

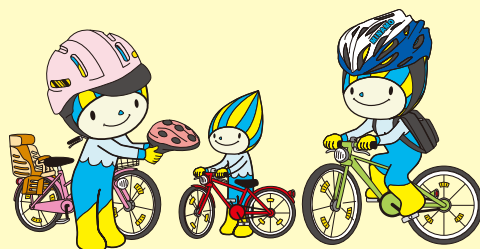
歩行者の女性は意識が戻らない重症を負いました。
監督責任を問われた保護者に

約9,500万円の支払い命令が出されました。
(神戸地方裁判所、平成25年7月4日判決)

身を守る

ヘルメットの着用努力義務

ヘルメットの**着用**があなたの**未来**を守ります



自転車乗用ヘルメットを ～手記「脳を守る」～

NPO法人日本高次脳機能障害友の会 監事 古謝 由美

まだ、社会に「こうじのうきのうしょうがい高次脳機能障害」という言葉が知られていない1995年9月15日敬老の日、高校2年16歳の息子は体力作りにと早朝より自転車で出かけていきました。「いってらっしゃい、気をつけてね。」と送り出し、夕方「今から帰るからね、お腹すいたな。」と、これが健常者としての息子の最後の言葉になるうとは夢にも思いませんでした。病院のベッドで横たわる息子との再会、ついさっき電話で話したばかりなのに意識のない息子を前に医師から説明を受けたものの頭の中は真っ白、何も考えることができず、命さえ助かれば良い、また笑顔に会えると、ただただ祈るばかりでした。命を取り留め、体は徐々に回復していきましたが、日を追うごとに感じる違和感、何かが違う。これが頭部外傷による「高次脳機能障害」でした。今まで簡単にできていた事が出来なくなり絶えずイライラする息子、復学を望んでも難しく支援学校への転校など様々な壁が待ちっていました。例えば支援学校卒業後、就労することが出来ましたが、一度にたくさんのことを記憶することが難しく仕事の手順などなかなか覚えることが出来ず失敗を繰り返すこともあります。また、コミュニケーションが上手くとれず、他者とのトラブルも起こりました。

主婦の場合、子供との接し方が解らず母親としての対応が出来なくなってしまう、家事を上手くこなせなくなる。小児においては仲間との言葉の理解が出来ずそのため仲間外れやいじめの対象となり様々な問題が出てきます。

見た目は健常者の方達と何ら変わりはありません。しかし、社会生活を営む中で様々な支障があるのも現状です。人として一番大切な脳の機能が失われるということは生きていくことに疲れてしまうことがあります。自転車が好きで運動することが好きだった息子は休日の時はいつもヘルメットを被り自転車で出かけていました。しかし、事故に遭ったあの日に限って、ヘルメットを被っていませんでした。24年経った今でも思います。あのときヘルメットを被っていたらここまで酷い障害が残らなかったのではないかと。今、息子は出会った人たちのおかげで高次脳機能障害者ですが元気に生活しています。自転車で出かけるときは必ずヘルメットを忘れず被っていきます。そして一言、「ノーヘルは危ないからね。」。